

第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

天理市立福住小学校 養護教諭 溝畑 桂子

1. 単元名

「ジェンダー・バイアスに気づき、一人ひとりの自分らしさを大切にしよう」

2. 単元の目標

- ジェンダー・バイアスとは何かについて知り、職業におけるジェンダーの固定観念を通して、自分や社会が持つジェンダーの見方や考え方を理解することができる。また、日常生活にあるジェンダー・バイアスやジェンダー・フリーの取り組みについて調べ、「表現する性」とは何かについて理解することができる。
(知識・技能)
- 様々な場面でジェンダー・バイアスがあることに気づき、現代では性に関する多様な考え方があることやジェンダー・フリーの取り組みがあることを多角的に捉え、考えたことや感じたことを説明したり、表現したりすることができる。また、自分なりにジェンダーに関する課題やその解決に向けた方法を考えることができる。
(思考・判断・表現等)
- ジェンダー・バイアスや性の表現について関心を持ち、意欲的に学習に取り組むとともに、これらのことに限らず、自分が好きなものを安心して表現できるようにしたいという意識を持つ。また、そのために一人ひとりが他者との違いを認めようとする態度で人と関わることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

小学校の保健の教科書には「思春期になると異性への関心が高まる」といった表現があるが、学校においてもLGBTQの当事者の子どもたちが教室にいるという前提で配慮することが必要となってくる。ジェンダーの固定観念にとらわれず、自分らしさを表現できる社会を創っていくこと、多様性を尊重することが大切であるという意識を育むことをねらいとし、本単元では「職業におけるジェンダー・バイアス」、「日常生活にあるジェンダー・バイアス」、「表現する性(男らしさ・女らしさ)」を教材として取り上げる。

単元の前半では、職業における性別のイメージを確認し、それが本当に男性だけ、女性だけがする仕事なのかを考えることにより、自分が持つ固定観念に気づくことができる。また、日常生活におけるジェンダー・バイアスを調べることにより、「男らしさ」や「女らしさ」が社会、家庭、学校、メディアなどからの影響を受けたものであること、また、自分たちが持つ固定観念との関わりがあることに気づき、物事を多角的に捉えることができるよう努めていく。さらに、天理市の「性的少数者(LGBTQ)に配慮した制服制度の導入」を知ることで、社会のジェンダー・フリーの取り組みを身近な問題として意識し、関心を高めることができる。

単元の後半では、服装・髪型・言葉遣い・ふるまいなどの見た目の「男らしさ」「女らしさ」を自分がどう表現したいか、自分の好きなものは何かを考えさせることで、何をどう表現したいかや何が好きかは一人ひとり違うことや「男だから」「女だから」に関係なく、自由に自分を表現しても良いことに気づかせる。また、多数派の意見がいつも正しく、少数派の人が必ずしも間違っているわけではないことや自分が当たり前と思っていることでも、他の人にとっては当たり前ではないことがあると気づかせるとともに、誰もが安心して自分を自由に表現できるようにしたいと思う意識や態度を育むことを大切にする。

(2) 児童観

本学級の児童は、男子5名、女子6名の小規模集団である。固定化された人間関係ではあるが、地元の児童だけでなく、転入生や小規模特認校制度を利用し、校区外から通学している児童もおり、小さい頃から育ってきたコミュニティや背景は様々である。少人数学級の温かい雰囲気の中で、素直な反応を示す児童も少なくなく、これまでの保健学習や保健指導のなかでは自分たちの心身の健康に関心を持ち、意欲的に学習に参加することが多かった。

また、保健学習の「思春期の体の変化」では、大人へと成長していく心と体の発育・発達に興味を持ち、積極的に発言する姿が見られた。思春期の変化には個人差があると理解できるようになった児童が本課題に取り組むことで、一人ひとりの違いを認めることの大切さを意識することができるようになると考えられる。

(3) 指導観

本単元の指導では、まず、様々な職業カードを提示し、「男性がする仕事」「女性がする仕事」のどちらかと思うかをゲーム形式で確認していく。結果がでたら本当にその仕事に限られた性別の人だけの仕事なのか考えさせ、大多数の性別とは異なる性別の人も働いていることに気づかせる。

次に仕事だけでなく、日常生活にあるジェンダー・バイアスについてタブレットを用いた調べ学習やグループでの話し合い活動を取り入れ、主体的に取り組めるよう学習を進めていく。様々なものに対する性別のイメージを児童と一緒に考え、その際、児童が感じた疑問や気づいたことを大切にしながら指導していく。

次に「男らしい」「女らしい」という言葉を聞いたことがあるか、また、その言葉を聞いた時にどう感じたかを考えさせるとともに、近年の社会におけるジェンダー・フリーの取り組みについて提示し、これまで当たり前としていた価値観について考えさせていきたい。さらに、見た目の「男らしさ」「女らしさ」を自分がどう表現したのか自分自身について考えさせることで、表現の仕方は一人ひとり違うということを感じ、より身近な問題として受け止めることができるよう促したい。

単元の最後には、現在の「当たり前」に疑問を持つ視点を見いだすことができるよう、絵本「せかいでさいしょにズボンをはいた女の子」「いろいろ いろいろな かぞくのほん」を読み聞かせる。これらの絵本を通して、現在は男女ともに当たり前に着用するズボンも昔は男性の衣服であったことや個人だけでなく、家族にもさまざまな形があると知ることですべての人が自分自身を自由に表現し、安心して過ごせる社会にするために自分たちには何ができるかを考えさせていく。

(4) ESDとの関連

○本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

- ・多様性：一人ひとりの違いを理解することが大切である。
- ・公平性：ジェンダーの固定観念や性別による偏見をなくすことが必要である。
- ・相互性：周りの価値観と自分の価値観の違いに気づき、互いの違いを認め合うことができるか。

○本学習を通して育てたいESDの資質・能力

- ・批判的に考える力
社会や文化によって作られてジェンダー・バイアスについて、当たり前と感じている価値観が本当に正しいのか改めて考えてみる。
- ・多面的・総合的に考える力
男女の身体的な機能、役割、表現、職業、表現する性などについて考えることができる。

- ・つながりを尊重する態度
自分とは異なった価値観・考え方を持つ人と関わり、その違いを知ることで自分の見方や価値観を広げ、成長することができる。

○本学習で変容を促すE S Dの価値観

- ・世代内の公正
ジェンダー・バイアスの実態や問題、表現する性についての正しい知識を持ち、自分が持つ価値観を見直すことで、責任を持った言動や行動ができるように努めることが大切である。

- ・人権・文化を尊重する
ジェンダーに関するだけでなく、様々な背景を持った人々で社会は構成されている。自分自身もその中の一人であり、一人ひとりが尊重される存在である。

○達成が期待されるSDG s

- 目標 5：ジェンダー平等を実現しよう
- 目標 10：人や国の不平等をなくそう
- 目標 16：平和と公正をすべての人に

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①職業における性別の印象を通して、ジェンダー・バイアスとは何かについて理解している。 ②日常生活にあるジェンダー・バイアスについて調べたり、まとめたりしている。 ③社会におけるジェンダー・フリーの取り組みについて調べたり、まとめたりしている。 ④「表現する性」について考えることを通して、一人ひとり表現の仕方や感じ方が違うことを理解している。	①ジェンダー・バイアスについて学んだことや考えたことを説明したり、伝えあったりしている。 ②ジェンダー・フリーの取り組みについて学んだことや考えたことを説明したり、伝えあったりしている。 ③学んだことや絵本などの教材をもとに課題を見つけ、その解決に向けて自分なりに考え、適切に表現している。	①学習内容に関心を持ち、一人ひとりの違いや多様性を大切にしようとしている。 ②これまで当たり前とされてきた価値観を主体的に見直し、他者の意見を受け入れながら学習を進めようとしている。 ③全ての人が自分の好きなものを自由に表現し、安心して過ごせるように自分に何ができるかを意欲的に考えようとしている。

5. 単元の指導計画（全4時間）

次	学習活動	○学習への支援	○評価・備考
1	<ul style="list-style-type: none"> ○職業におけるジェンダー・バイアスを考えよう。 ・職業カードからイメージする性別について考え、共有する。 ・職業におけるジェンダー・バイアスについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○職業カードを提示し、職業における性別のイメージに着目させるとともに、特定の性別の人だけが担う職業なのかどうかを改めて考えさせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ア① (知技)
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ジェンダーの固定概念にはどのようなものがあるだろう。 ・日常生活にあるジェンダー・バイアスを調べる。 ・これまでにジェンダー・バイアスを感じる体験をしたことがないかを振り返る。 ・日常生活にあるジェンダー・バイアスについて話し合う。 ○社会のジェンダー・フリーの取り組みを知ろう。 ・奈良県や天理市で取り組まれているジェンダー・フリーの取り組みを知る。 ・ジェンダー・フリーに取り組む理由を考え、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットを用いて、ジェンダー・バイアスやジェンダー・フリーの取り組みについて調べさせる。 ○ジェンダー・バイアスやジェンダー・フリーについてグループで調べたことや考えたことをまとめ、発表させる。 ○地域のジェンダー・フリーの取り組みについて伝え、身近な問題であることを意識させ、話し合いをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ア②③ (知技) イ① (思判表) イ② (思判表)
3	<ul style="list-style-type: none"> ○「表現する性」について知ろう。 ・見た目に「男らしさ」「女らしさ」といったイメージがあることを知り、共有する。 ・今の自分の好きなもの（服装・髪型・言葉遣い・ふるまい）をどのように表現できるか考え、一人ひとり違いがあることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「表現する性」とは何かについて伝える。 ○表現の仕方は一人ひとり違うことに着目させる。 ○自分の好きなものを自由に表現して良いことに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ア④ (知技) ウ① (主体的)
4	<ul style="list-style-type: none"> ○誰もが自分の好きなものを安心して表現するために何ができるかを考えよう。 ・当たり前に対する疑問や多様な人がいることについて絵本を通して考える。 ・これまでの学習を振り返り、意見交換をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○絵本「せかいでさいしょにズボンをはいた女の子」「いろいろなかぞくのほん」を読み聞かせる。 ○これまでの学習を振り返り、すべての人が安心して過ごせる社会にするためにできることがないかを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> イ③ (思判表) ウ②③ (主体的)